

安保法制で自衛隊と日本はどう変わるのか

自衛隊が発足して61年。専守防衛のもとで研究・戦略・訓練されてきましたが、去る9月19日の「安保法制」の強行採決によって、自衛隊の海外派兵が現実のものとなりました。

集団的自衛権の新3要件、PKO活動、戦争には人的・金銭的コストの負担が発生します。それらについて、元自衛隊員の井筒さんに、防衛予算や自衛隊の人員構成からひも解いていただきます。

複雑怪奇に見える「安保法制」を理解するきっかけになります。ぜひ、ご参加ください。

入場無料



講師 井筒 高雄さん

12月23日（水・休）14時～16時

新発田市カルチャーセンター2階 視聴覚室

<講師のプロフィール>

井筒 高雄（いづつ・たかお）さん

1969年生まれ。東京都青梅市出身。1988年陸上自衛隊に入隊。1991年レンジャー隊員となるが、1992年PKO協力法成立をきっかけに、海外派兵は契約違反と1993年、3等陸曹で依願退職。1997年大阪経済法科大学卒業後、2002年から兵庫県加古川市議を2期8年務める。

今年9月に共著「安保法制の落とし穴」（ビジネス社）、10月に著書「自衛隊はみんなを愛してる！」（青志社）を出版。全国で若者に戦争させない講演活動をしている。

主催；非核平和新発田市民の会 共催；9条しばた市民ネット・新発田地区平和運動センター 連絡先 高野 090-4126-4940
三母 090-5790-0155